

第3課題 子どもの発達に関する課題

「現代の子ども達を取り巻く現状と課題に係る研究」～今日的教育課題の改善に向けて（確かな学力、健康・体力、情報教育）～

中巨摩支部

I はじめに

新学習指導要領では、児童生徒が主体的に感性を働かせ、他者と協働しながらより豊かなものを創りあげていくことを目指している。社会の変化に対応する力を育てるために、長年育成を目指してきた「生きる力」を改めて捉え直し、学校と社会の認識を共有し、一人一人の可能性を引き出して豊かな人生を実現し、個々のキャリア形成を促すことで社会の活力につなげようとしている。

本研究会は、一昨年度から、子どもの発達に関する課題—現代の教育課題に関することを念頭に、確かな学力、健康・体力、情報教育に関することを研究の方向性（柱）として確認し、組織的に連携するための研究を行った。

本年度は、3年間の研究のまとめとして、各地域・学校の特徴を活かした内容を踏まえつつ、現代の教育課題に関することを焦点化すること、また、互いに共通理解を図っていくことが重要であると確認をして研究をスタートした。そこで、実践を通して、より効果的で必要な取り組みを実施できるように、教頭として持つべき視点を確認してきた。

また、本研究のテーマである「現代の子ども達を取り巻く現状と課題に係る研究～今日的教育課題の改善に向けて～」のために、教頭が直接的に関わることは非常に限られている。その中で、教頭が直面している課題の改善のために、どのような働きかけを行っていけるのか、活動を工夫しながら増やし、課題を解決してきた。

II 研究のねらい

「今日的教育課題の改善に向けて」、各地域・学校で具体的実践に取り組むことにより、本研究会が今後取り組むべき課題や改善策を明確にする。また、各地域・学校の実践や取組を通して、教頭のかかわり方（直接的・間接的）を明らかにしていく。

III 研究計画

3年次（令和7年度）

- 4月 研究組織の確認と今年度の研究の方向性について、研究テーマ、研究の内容、研究計画について確認
- 5月 研究内容の決定、研究計画の確認
- 6月 ①実践発表（楡形北小、八田中）
- 7月 ②実践発表（豊小、竜王西小、田富小）
- 7月 ③実践発表（白根百田小、敷島小）
- 9月 ④実践発表（敷島中、敷島南小、三村小、田富南小）
第67回全国公立小中学校教頭会研究大会茨城大会参加報告（玉幡小）
- 10月 法制研修会・情報交換会（第59次教育研究集会等）
- 10月 第59次教育研究集会（22日）
- 11月 研究集会のまとめ、紀要原稿の校正
- 2月 本年度のまとめと来年度の方向性について

IV 研究内容

2年間の研究のねらいとして、次の2点に焦点を当て、研究を進めてきた。

- ・各地域・学校における具体的実践に取り組み、その反省をもとに今後取り組むべき課題や改善策を明確にしていく。
- ・学校の取組を通して教頭の関わり方（直接的・間接的）を明らかにしていく。

研究内容として、具体的な実践を、次の4観点にまとめた。

- ・子どもへの働きかけ
- ・教職員への働きかけ
- ・地域への働きかけ
- ・環境整備

観点を絞ることで、地域や学校ごとの共通性や相違性を理解しながら、教頭として児童生徒や教職員とどう関わっていくべきかについて積極的に意見交流を重ね、研究を深めることができた。

3年次は、他校の実践報告を参考にしながら、それぞれの課題の改善に向けて、教頭としてできること（してきたこと）は何かを中心に情報交換を行い、意見交流を実施した。

実践交流を行ってみると、ほとんどの学校で課題として捉え、その取組についてレポートしていたことが、「確かな学力」に関することであった。

したがって、今年度の研究内容を「確かな学力」を身に付けさせるために、教頭として、どのように関わっているのかという観点でまとめた。

研究の内容を報告するにあたって、教頭の役割が、どのようにそれぞれの課題と関わっているかを端的に示した、竜王西小学校での取組を紹介したい。



このように、教頭は、学校運営の要として、様々な条件整備を任されている。それを、学力の確かな定着に向けて、『教頭として』どのように取り組んできたかを、次の3つの観点に焦点化して各校からレポートされた実践の内容を報告する。

- ・授業改善の取組
- ・教職員同士をつなぐ取組
- ・家庭教育力向上の取組

1 授業改善の取組

(楡形北小, 八田中, 敷島中)

「確かな学力」と学習環境整備との結びつきについて述べられた、楡形北小の実践報告から抜粋すると、『「確かな学力」は、落ち着いた環境・心が不可欠である。また、教師が自信をもって児童生徒に向き合えることも重要だと考える。

教頭として、学校環境の整備、児童に落ち着いた心理状態を維持させるかわり、教職員への支

援等, を中心に行うことは結果として学力向上につながっていると信じている。』正しく、その通りだと共感せざるを得ない。

こうした考えのもと、楡形北小では、担任教師の空き時間を確保するために、教科担任制を導入したり、自ら授業を担当したりしている。また、教室を飛び出してしまう児童のクールダウン等の対応を教務部で行っている。

八田中では、1年目は授業法や課題づくり、2年目は環境づくりに、それぞれ重点を置いて取り組んできた実践が報告された。

固定化された人間関係を崩さないとの親和的人間関係が構築できない。それは、安心して学習できないことに繋がっていく。そこで、QUの活用方法の研修会を計画している。

同様に、学級集団作りのための対策として、敷島中でも、hyper-QUの結果について、杉本賢二先生を講師にお迎えして、御指導いただきながら分析を行い、担任に課題点や改善点を伝えている。

また、「フリートーク」を毎日行い、生徒同士の関係づくりにつなげ、安心できる学級の雰囲気づくりを行っている。

「フリートーク」について

- ・各クラス、毎日の朝や帰りの会で1～2分程時間を取り、生活班でトークテーマについて話す。
- ・トークテーマは気軽に話ができるものでOK。担任が決めても、生徒が決めてもよい
- ・全員がテーマについて話す。誰かを批判したりしない。うなずきなどのリアクションをする。意見を言ったままにしない等のルールがある。
- ・トークテーマの例
(休日にどんなことをしているか)
(最近嬉しかったこと)
(100万円を1日で使うならどう使う)
(プチ自慢を教えて)
(長縄の記録をもっとよくするには)
(どんな老後の生活を送りたいか) など

授業改善のため、教頭として、自ら授業を行うことで同じ教科の教員や、若手の教員に授業を提示している。授業観察を実施し、面談やメモで指導・アドバイスをを行い、どのように改善されたのか事後観察を行う。ICTの活用が適切にできているか、授業観察を通してアドバイス等を行う等が報告された。学級づくりが充実した学習指導と密接に関わっていることを踏まえた実践である。

2 教職員同士をつなぐ取組

(竜王西小, 三村小, 田富小, 玉幡小)

先に紹介した, 竜王西小での取組「主任会」, 「ミドル会」にもあったように, 教職員同士をつなぐ取組として, 物理的な環境を整備し, 教師同士の会話が生まれるような職員室のレイアウト変更をしたり, 語り合う時間を確保したりする工夫が報告された。

三村小では, 職員の年齢構成において若手の割合が多く, 共有しなければならないことが多い中, 具体的なロールモデルに乏しく若手の育成が難しいという課題がある。そのため, 若手の先生方が担任する学級の集団力の共有が弱く, 集団作りの実践に触れる機会も少ない。学級力とともに学力の低下。コロナ自粛期間に低学年だった児童の学年において, 集団の横軸が弱い傾向がある。

そこで, 手立てとして, ①校内研修として「学級力向上」を位置づけたこと。②毎週金曜日の終礼前に「KPTea Time」を設定した実践が紹介された。



玉幡小においても, 校内研究会の前半はお悩み相談タイムを設定し, 低中高学年ブロックごとに, 主に若手の先生が一人で悩みを抱え込まないような工夫をしている。

田富小では, 学校評価活動を学校経営の基軸に置き, 取り組むべき重点を絞り, 具体目標と指標を定めている。これらの重点項目の各担当者が当

事者意識をもって主体的・効果的に取組を継続するように指導している。

<重点項目>

- ① 自立の基礎を培う (つなげる日記)
- ② 聞いて考え, 語り合う子を育てる授業作り
- ③ 読む子を育てる確かな学力を支える授業
- ④ 自ら学ぶ子を育てる心の居場所と支え合う学校生活
- ⑤ 地域とつながる挨拶運動の推進, 共生の教育の推進
- ⑥ 体力向上の推進食育の推進
- ⑦ 積極的な情報発信と連携

教頭としてのかかわりとしては, 特に, 校内研一人一実践を実施→授業観察→指導助言の流れで田富スタンダードの徹底を図っている。また, 外国籍児童が約6人に1人の割合で在籍しているという現状を踏まえて, 出入国在留管理局から講師を招聘して, 外国人との共生社会の実現に向けた研修の企画を行ったり, 「やさしい日本語」化ツールの紹介などの情報提供しているという実践も報告された。

3 家庭教育力向上の取組

(豊小, 田富南小, 敷島小, 敷島南小, 白根百田小)

豊小では, 「豊小学校学びプラン」という, 教職員・児童・保護者が共通認識している指針があることで目指すところが明確になり連携がとりやすいという実践が報告された。

「豊小学校学びプラン」

(1) 落ち着きのある生活

- ①早寝 早起き 朝ごはん
- ②親子の会話を大切に
- ③気持ちの良いあいさつで一日が始まる
- ④思いやりのある行動
- ⑤学校では学級集団づくりの取組

(2) 学び合い高めあう学級

- ①授業づくり
- ②ノートづくり

(3) 物がまえ 気がまえ

- ①物がまえ (学用品を準備するための指針)
- ②気がまえ (家庭学習)

各校でも同様の指針が設定されているとは思いますが, 学校だけで学力向上を目指すのではなく, 家庭の協力が必要であるということが伝わるという

メリットがある。

田富南小では、日常実践の推進を目的として、校内研究の一環で、「学習環境づくり部」を設けている。読書活動推進班、家庭学習推進班、生活習慣活動推進班で家庭教育との連携を図る取組が報告された。

また、家庭との連携が必須な課題として、児童生徒の「ネット依存」の問題がある。合わせて、情報教育や情報モラル教育をどのように進めればよいか、携帯電話やスマートフォンなどによる有害情報から子どもを守る教育をどのように進めればよいかといった問題もある。

これらについては、ここ数年で、各校での取組が定着している。具体的には、県教育庁生涯学習課「ほっと！ネットセミナー：今こそ考えよう！スマホやゲーム機の使い方」の実施。KDDIによる、スマホ・ケータイ安全教室（子どもたちが携帯電話等を利用する際、自らの判断でリスクを回避する能力を身に付けるため）の講座の実施などの実践報告があった。（敷島小、敷島南小）

白根百田小からは、課題を抱える家庭や学校（教室）に行けない子（家庭）への対応についての報告で、子どもに対する衣食住環境が整っていなかったり、家庭での生活リズムが崩れていて、子どもが登校できなかつたりする問題を取り上げていた。この点については、各校で同様の課題を抱えている。解決のための手立てとして、適応指導教室などの外部機関との情報共有により、手厚い支援が受けられる場合もあること。連携を密にすることで、指導員の先生や保護者・子どもとの距離が縮まること。校内では、養護教諭と日常的に情報交換を行い、保健室登校のルール確認や担任への指導を行うことなどの取組が報告された。

V 研究の成果と今後の課題

1 成果

今年度は研究のまとめの3年次として、内容については、「確かな学力、健康・体力、情報教育」に焦点を当てたことで、研究のねらいがさらに明確になった。今年度も、昨年度に引き続き、構成メンバーがレポート発表をした。そうすることで、地域性（南アルプス市・甲斐市・中央市）や学校の特性（小中一貫校や規模の大小）の違いに関して、さらに互いに理解を深め合い、意見を交流することができた。

また、これまでの2年間の研究を踏まえて、「それぞれの学校で地域性や学校の特性を活かす取組みをどのように取り入れていくべきか」について焦点を当ててきた。研究会で得たことを、自校の実情に合わせ、積極的に取り入れ活かすことや他校の実践を効果的に反映させることができたという報告も多かった。

実践報告から、地域や学校の特性を知り、共通性や相違性を理解しながら、教頭として、児童生徒や教職員とどう関わっていくべきかについて、グループ討議や全体会で積極的に意見交流を重ねていくことができたことは大きな成果であった。

2 課題

今年度も各校の実践レポート報告を通して、教頭の働きかけには様々な方法（直接的・間接的）があることが分かった。これまでの2年間の研究を通して、他校の実践事例から学んだことを、自校に持ち帰り、早速、実践した成果を報告するという事例もあった。私自身も、毎回、この課題別研究会での実践報告会を楽しみに参加していた。

昨年度の、指導助言にあるように、「学校職員も、『一人だけども一人じゃない』という思いが伝わる学校運営」、「いきつくところは人間関係」、「教頭が元気で、笑顔で、児童生徒や学校職員、保護者に接することが魅力ある学校運営に繋がる」教頭という立場で日々、職務を遂行していると全くその通りだなと思われ知られることに会う。そうしたときに、相談できる同じ立場の仲間がいる。解決に結びつくような事例を知っているということは、大きな財産である。3年間の研究で得た共有財産を、いつでも参考にできるデータベース的なものを構築することが課題だ。

教頭間の情報交換が気軽にできるように、いつでも困りごとや、実践交流を気軽にできるホームベース的な空間を構築することにより、即時的に各校の課題解決に役立てることができるのではないだろうか。

このように研究発表会や研究紀要として情報を共有するだけでなく、具体的な手立てがほしい時に、手軽に情報を得ることができれば、教頭としての仕事の負担軽減にもつながり、教頭先生をはじめ学校に関わる全ての人たちの、元気や笑顔につながると確信している。

（文責 城内 優子）